2013年12月
75号
平成25年12月1日発行

CAPNA ニューズレター

発　行　（認定）NPO 法人
CAPNA（子どもの虐待
防止ネットワーク）
事務局　〒460-0002　名古屋市
中区丸の内 1-4-4-404
Tel:052-232-2880
印　刷　常川印刷株式会社

児童虐待防止推進月間

CAPNA 理事長　兼田智彦

2000 年 11 月に「児童虐待防止法」が成立したことなどで、毎年 11 月を「児童虐待防止推進月間」として官民一体の集中的な広報・啓発を実施しています。

厚生労働省の「児童虐待防止推進月間」標語は全国公募を行い、応募数 7,770 作品の中から、最優秀作品を選考しました。（平成 25 年度最優秀作品）
「さしのべた　その手がこどもの　命綱」伴　美里（ばん　みさと）さん（愛知県）

（認定）NPO 法人 CAPNA（子どもの虐待防止ネットワーク）では、商店街のイベントなどでの広報活動（春日井勝川：弘法市・名古屋市長者町：えびす祭り・豊川市：いなり楽市）をハーレーサンタクラブとともに行いました。また、今年は「持続可能な開発のための教育」(ESD) 世界会議あいち・なごやのプレイベントとして栄地区でのイベントに 2 日間参加しました。

これらのイベントでは、子ども向け、親向けのワークショップや綿菓子づくりの体験などを通して、子育て支援や虐待防止を訴えました。

日本子どもの虐待防止民間ネットワークが全国で実施している、「全国子育て・虐待防止ホットライン：ナビダイアル :0570-011-077・メール相談」は通年実施していますが、毎年 11 月 1 日～ 7 日までは電話相談時間を延長して行いました。全国　子育て・虐待防止ホットライン　では 9 団体が参加しています。

日本子ども虐待防止学会信州大会

日本子ども虐待防止学会信州大会は 12 月 13 日（金）14 日（土）の 2 日間長野県松本市で開催されます。来年は名古屋で「第 20 回 ISPCAN 子どもの虐待防止世界会議名古屋」として、国内大会・国際大会を合同で行います。9 月 14 日～ 17 日まで、ぜひご予定ください。

甲斐さん日本一周マラソンで「子どもの虐待防止」を訴える

宮崎県の虐待防止民間団体の代表である甲斐英幸さんは、宮崎県庁に勤めていましたが、「虐待防止と世界会議の成功」を訴えるために、県庁を早期退職して日本一周マラソンに挑戦しています。5 月 5 日に宮崎県を出発し、九州を北上、関門海峡をトンネルで走り抜け、山口・島根・鳥取と日本海側を北上して青森まで、北海道は車で回りまた南下、岩手・宮城・福島・茨木の被災地をとおり、東京では皇居一周マラソンにも参加しました。

東海道をひた走り、9 月 14 日名古屋での歓迎イベントに参加していただきました。その後、市役所を表敬訪問して岩城副市長に面会、日本子どもの虐待防止民間ネットワークの活動ではともに汗を流した仲で、固い握手をしていました。

その後、京都・大阪を経て四国に入り、現在は山口県あたりを走っています。ゴールの宮崎には、12 月 25 日のクリスマスに到着の予定です。

無事に走り終えられることをお祈りしたいと思います。

「赤ちゃん縁組み・新生児里親委託のとりくみ」が注目されています。

先日、NHK「金とく　赤ちゃん縁組で命を救え」の番組で愛知県の児童相談所が 30 年以上にわたって行われている「赤ちゃん縁組」の取り組みが紹介されました。「新生児特別養子縁組」様々な事情で生まれてくる赤ちゃんを育てられない親から、子どもを望む里親家庭へ赤ちゃんを託し、特別養子として育てる仕組みです。児童相談所が妊娠中から相談にのり、赤ちゃんは乳児院を経ずに里親家庭へ来ます。

乳幼児の遺棄、虐待死などのニュースが続く一方で子どもに恵まれず不妊治療を続けている夫婦のことも話題になりました。生みの親に恵まれない赤ちゃんと子どもに恵まれない夫婦の橋渡しを民間団体が行っていることもたびたび取り上げられています。そうした中で児童相談所が虐待対応に追われながら「赤ちゃん縁組」の取り組みを行っていることで注目されています。

親の虐待で命を失う子どもはどれだけいるのか。この 7 月、厚生労働省から「子ども虐待による死亡事例等の検証結果等について（第 9 次報告）」によると、平成 23 年 4 月 1 日から平成 24 年 3 月 31 日までの 12 か月間に発生し、又は表面化した児童虐待による死亡は 99 人とのことである。心中以外の虐待で死亡した子どもの年齢は 0 歳が 25 人（43，1%）さらに月齢 1 か月未満いわゆる新生児の死亡が 11 人となっている。

CAPNAは全国から虐待死事件のデータを集め「見えなかった死」「防げなかった死」を 1998 年、2000 年に発行、さらに 2006 年に報告書「子どもの虐待死―10 年の実情―」を出した。「1995 年から 2004 年の間に生じた子ども虐待死事件は 1024 件、死亡した子どもの数は 1219 人、死亡した子どもの年齢で最も多かったのは、生後 1 か月未満の 227 人」と報告されています。

愛知県内の児童相談所では一般的なケースワークとして行われている「赤ちゃん縁組み」（=新生児里親委託）の第一の特長は妊娠中から相談にのることです。第二の特長は病院から直接里親家庭へ赤ちゃんが引き取られることです。第三の特長は特別養子縁組組を前提に委託することです。多くの場合養親となる里親の希望で命名がされます。もちろん生みの親の了承を得ています。

取り組みのいきさつは 1973 年の「菊田医師事件」まで遡ります。この事件がきっかけとなり、愛知県産婦人科医会は 1986 年から「赤ちゃん縁組無料相談」を始めました。生みの親が育てられない赤ちゃんと子どもに恵まれない夫婦の橋渡しは 1997 年まで続き 1255 組の親子を誕生させました。ここで登場するのが矢満田さんです。当時児童相談所で児童福祉司をしていた矢満田さんは愛知県産婦人科医会の手法に子どもの視点を加え、子どもを迎える夫婦に厳しい条件を付けて 1982 年初めて児童相談所の業務として新生児を里親に委託しました。前例がなくとも「子どもにとって最善の方法」と強い信念で始める勇気は見習いたいものです。名付け親となって、生後間もない時期から養育を開始、法律的に親子関係をつくるやり方は里親に好評でした。徐々に県内の児童相談所に広がり、矢満田さんが退職されてからも後輩の児童福祉司たちによってすべての児童相談所で赤ちゃん縁組・新生児里親委託が行われています。愛知県の新生児里親委託は平成25年3月までの約31年間で160組の新しい親子を誕生させました。年間 10 件前後、一児童相談所で年間 1 ～ 2 件、虐待対応に追われているとはいえ、他の業務を圧迫するほどの仕事量ではないと思います。新しい親子、家族の誕生に立ち会えること、そのために児童相談所が貢献できるのは児童相談所職員としての大きな喜びとなっているはずです。里親委託式（子どもを迎えたときのお祝い会、里親サロンで行われている）では里親も児童相談所職員も感激して涙している場面がしばしばみられます。

虐待の死亡事例で最も多いのは新生児ですから、妊娠中からの関わり、支援は虐待予防につながります。「生みの親が育てられない赤ちゃん」と「子どもに恵まれない夫婦」の橋渡しの取り組みはこれからも重要な虐待予防の柱です。

養子縁組に関わる民間団体の協議会が 9 月「一般社団法人養子縁組団体協議会」として設立され、4 月と 10 月に院内集会が行われ、CAPNAへも準会員として参加要請があり参加しました。

昨年夏の CAPNA 主催「赤ちゃん縁組実践交流セミナー」後、「新生児委託しました」の便りが県内の児童相談所に届いています。

（萬屋育子）

子育て最前線・・・公園デビューよりネットデビュー

一昔前まで、公園デビューという言葉が育児雑誌などに頻繁に登場していたが、近年の子育てママの間では、『公園』より『ネット』デビューが主流のようである。近年の子育て環境の劇的な変化の代表的なものは、SNS（ソーシャルネットワーキングサービスの略）の浸透であろう。2011 年の人気子育てサイトの調査で子育て中の母親の 8 割強が何らかの SNS を利用していると答えている。また、NTT 西日本の HP には『デジマム（デジママ）』～インターネットを育児にフル活用しているママたち～の〔e 子育て〕について載っている。それによると彼女たちは　YouTube で子守唄を聞かせ、子どもの動画を実家に送り（ネット帰省）、ネットで子育ての悩み相談（利用目的の 25% を占める）している。このように、便利なネットをフル活用し、単に情報を得るだけでなく、他の母親とのコミュニケーションサイトとしても活用、また、特に乳幼児を持つ親にとっては、買い物もできるネットは不可欠なツールであるといえる。

一方で子育て中の親の『ネット依存』の問題も見過ごせない。当団体の利用者の母親の中にも、子どもを遊ばせながらもスマホを手放せない親や、他の親との交流よりもスマホ、という親も少なくない。私はこれらの状況が子と向き合う時間を侵襲し、目の前の子どもを見ているようで見ていない状況を生んでいるのでは?と懸念している。先日電車で 3 歳ぐらいの子どもが窓からの景色を見ながら母親に一生懸命話をしているのだが、親は携帯に夢中で子どもの話は上の空・・・という光景を見たばかりである。

また先日、滋賀県で体調の悪い幼児を夜通しネットをしていた母親が放置し、児が死亡したとして母親が逮捕された事件もあったばかりである。

私は以前、一晩中ネットやチャットをやっていた母親の相談に乗っていたことがある。この母親は子どもを保育園に送ってから就寝し、夕方起きて行動という生活を送っており、常に強い不安感を抱いていた。そのうえ子どもの泣き声に過敏に反応し、怒りが抑えられず、他者とのコミュニケーションがうまく取れないでいた。ネットの利用時間をコントロールできず使用時間を延長し続けるなど、利用に歯止めがきかない親であった。このような母親の中には、生活上の悩みを相談するのに、他の方法を知らないから、または直接話す相手がいないからという理由でネットに依存している親もいる。

このような母親たちに対しては、他の快適な関係性の構築の経験をすることが、ネット環境の過度な侵襲状態の改善につながるのではないかと考えている。前出の母親も当団体に何度か足を運んでいく中、半年程度で夜間のチャットをやめ、子どもへの怒りの表出も減ったと話していた。

生活上の課題を抱えつつ改善できないでいる親と直接話をする機会を作る、母子保健領域でのアウトリーチ型の子育て支援のさらなる推進が望まれる。

ネット時代の弊害として、若者たちの LINE や Face Book での仲間（?）によるいじめや、中には事件に発展する事例が問題になっているが、子育て中のママたちにも同様のトラブルは存在している。人とのつながりは、この時期には特に、直接会って話（やりとり）をすることを重視してほしいと願う。

便利さの裏の‘闇’も無関心ではいられない今日この頃である。

（NPO 法人みっくみえ代表　松岡典子）

安全委員会報告続きその２

まずは2013年9月夏休み明けに第5回安全委員会での施設長挨拶を紹介します。
「就任6年目、今年の夏休みは園長がいてもいなくてもいいような状況だった。」　　しかも新学期、登校を渋る子は0とのことです。子どもにとってはうれしい夏休みも養護施設の職員にとっては大変なのです。朝から晩までおおぜいの子どもたちが園内で生活しているわけですから。子どもどおしのトラブルはつきもの、そして外出先でも帰省先でも大小の事件が起きます。安全委員会を導入した初めての夏休みは本当に大過なく過ぎ冒頭の言葉となりました。
安全委員会活動の中心は毎月の子どもからの聞き取りです。「暴力を受けたら訴えてきなさい」と訴えてくるのを待つのではなく職員が毎月聞き取りを行います。自分の体験だけでなく目撃・伝聞情報、性暴力、職員や大人からの暴力、睡眠や夢などについて聞きます。集約して対応を話し合い、すべて安全委員会に報告されます。ことの大きさ・影響力などに応じて内部委員注意、安全委員会委員長注意、厳重注意などがあります。興味深いことは聞き取りを重ねると過去の体験が出てくることです。半年以上前に友達にされて嫌だったこと、職員の注意の仕方・言動が度を越しているのではないかといったものが出てきました。訴えのあったことについては丁寧に当事者から状況を確認します。「いやっだったこと」や「行き過ぎた指導」については過去のことであっても「悪かった」「いきすぎだった」と伝えてもらうのです。子どもたちは自分が言えば大人が対応してくれることを実感します。担当職員と子どもとの関係がよくなり、いわゆる指導も通りやすくなるというわけです。もう一つの活動は日々の指導「叩くな、口で言う」「優しく言う」「相手が悪くても叩いてはいけない」を合言葉に子どもたちが気持ちを言語化できるように援助することです。
手が出るのは言うべき言葉に詰まったとき、かっとなったときが多いものです。大人も子どもも魔法の呪文のように唱えるというのはいいことだと思いませんか。
　平和学園で立ち上げ集会をしたのは今年の1月、半年の取り組みの成果が冒頭の施設長挨拶だと思います。
　10月3,4日に北海道・札幌で「第5回児童福祉安全委員会全国大会」がありました。私も委員長として児童相談所職員や平和学園の職員と参加しました。導入施設は全国でたったの15施設。導入の動機、時期は様々だが異口同音に「導入してよかった」といっています。またある施設の報告では「導入後すべての子どもに暴力行為の減少が見られた。精神発達地帯、アスペルガーと診断されている子どもについても明らかな現象が見られた。」とのことです。導入前、導入後養護日誌から拾い出し比較をしたそうです。
　「安全委員会」考案者の九州大学田嶌誠一さんは援助の基本は「本人の希望を引き出す、それを職員が応援していく」ことだといっています。こころしたい言葉です。子どもたちはいつでもどこでも「安全安心」が必要です。広がることを期待しています。

（萬屋育子）

CAPNA 新年会のご案内

正会員･団体会員･賛助会員また CAPNA の関係者様いつも CAPNA の活動をご支援していただき、誠に感謝しております。
この度、CAPNA の新年会を開催する運びとなりましたので是非みなさまご出席ください。
ニューズレターだけではお伝えする事ができない、違う一面を感じていただきたいと存じます。

会場・アイリス愛知（１２階グランシャリオ）　　日時・２０１４年1月１９日（日）１８時より
会費・お一人様￥４，５００－　　締切り・２０１４年1月１４日（火）
問合せ・CAPNA 事務局

ESD ユネスコ世界会議1年前イベントに参加しました

来年の11月に行われる ESD ユネスコ世界会議の1年前イベントとして9月14・15日の二日間行われた、“環境と芸術の交差点　あいち・なごや ESD フェスタ 2013in 名古屋”に参加しました。

ESD とは持続可能な社会を支える担い手づくりの取組みです。環境、貧困、人権、平和、開発といった現代社会の様々な課題を自らの問題としてとらえ、身近なところから取り組むことにより、それらの課題の解決につながる新たな価値観や行動を生み出す事、そしてそれにより持続可能な社会を創造していくことを目指す学習や活動を示します。

CAPNA は人権のブースを出展し、子ども向けにはお絵かきのワークショップを、また大人の方には虐待についてのお話させていただきました。

総勢２０人近くの理事と相談員が二日間に渡り、会場を盛り上げてくれました。ブース内に展示した子どもたちの絵は２００枚以上になり、沢山の人々に関わることのできる貴重な時間でした。

水野　真由

長者町えびす祭り

10 月 19 日・20 日に行われた長者町えびす祭りに、募金活動と子供向けワークショップのブースを出店しました。CAPNA としては、久しぶりのワークショップの開催ゆえ、ボランティアスタッフが集い、子供が楽しく参加できる企画を考えました。結果、くじ引きをしてもらい、くじに書かれている「好きな人」「好きな果物」「好きな動物」等、「好き」をテーマにした絵を描いてもらうワークショップ、5月5日の子どもの日に届くように「未来のあなた（もしくは私）」に向けたハガキを書くワークショップを企画しました。参加者には、ポッカサッポロさんから寄贈して頂いたリンゴジュースとグレープフルーツジュースをプレゼントしました。また、募金活動として募金してくださった方に、綿菓子作り体験をしてもらいました。

20 日はあいにくの雨でしたが、両日共に多くの方々に参加して頂き、楽しんで頂けたと思います。（学生ボランティアとして東海学園大学の学生さんも協力してくださって・・・・）
これからも CAPNA の広報活動も含め、未来ある子供たちのために活動したいと思います。

尾関　恵美

最近の活動の状況

◇電話相談

子どもの虐待防止ホットライン・あいち
2013 年度（4 月～ 9 月末日）電話相談結果報告

① 総受信件数　　593 件
＜総件数の内訳＞

1）相談者性別・年代

	１０代	２０代	３０代	４０代	５０代	６０代	不明	合計
女性	10	75	105	95	104	14	157	560
男性	1	4	9	4	2	1	12	33

2）利用回数

初回	継続
309	284

3）相談時間

～9	～１９	～２９	～３９	～４９	～５９	60 分以上
65	108	107	97	64	55	97

平均時間 34 分

4）被虐待経験の有無

あり	なし	不明
231	57	305

② 内容別件数

虐待（含む危惧）	118
18 歳以上の虐待	138
育児不安	142
マスコミ・問合せ	23
その他相談	172

＊虐待の型＊

身体的	心理的	ネグレクト	性的	不明
98	117	17	16	8

「CAPNA 電話相談員になって」

金曜 G 黒田昭子

今年の４月から相談員として電話をとり、早くも半年が過ぎてしまいました。月に２，３回のペースで入っているものの、前日からの緊張感で毎回睡眠不足気味です。相談室に向かう電車の中では前回のやり取りを思い出し、もっと聴くべきところがあったのでは、もっと寄り添えたならと遅ればせながら反省しきりで、きっと怖い顔になっていると思います。先輩の方々も「これでいいと思ったことはない」とおっしゃっているので、この言葉を胸に心身の健康に気を付け、続けたいと思っています。

新聞を開けば毎日のように、虐待関連のニュース。当の子どもはもちろん、そうせざるを得なかった親の背景などを考えると、胸が苦しくなります。当たり前の日常が過ごせないなんてと・・・。

微力ながらこの活動に参加させていただいていることに感謝しています。

◇シェルター事業

月	受付先	経路	利用者		内　容	判断	支援
8月	事務局	警察	母	子ども1人	DV ケース	該当	利用なし
8月	事務局	機関	１０代女子		虐待・非行	非該当	利用なし
8月	事務局	機関	成人女子		DV ケース	該当	利用なし
9月	事務局	機関	成人女子		息子からの暴力	非該当	利用なし
11 月	事務局	機関	母	子ども1人	虐待・DV ケース	該当	利用
11 月	事務局	機関	母	子ども２人	DV ケース	該当	利用なし

◇7-10 月までのセミナー、講演会、その他

7月26日（金）平成２５年度愛知県自殺ハイリスク者対策モデル事業
「世代別でみる自殺の危険を示すサイン・気づいた時の対処法」
講師・関口純一　会場・ウィルあいち
8月8日（木）ＣＡＰＮＡ懇親会
場所・ウィルあいち　参加者・理事、相談員、正会員（４０名の参加がありました）
8月 17 日（土）オレンジリボン啓発活動（勝川弘法市）
場所・春日井市
8月 19 日（月）平成２５年度　名古屋市児童虐待防止研修会
「学齢期における親と子どもへの支援」
講師・石川健司　会場・鯱城ホール
8月26日（月）平成２５年度福井県児童虐待防止専門研修会
「児童虐待防止と対応～地域における連携のあり方～」
講師・小久保裕美　場所・福井県嶺南振興局若狭健康福祉センター
8月 31 日（土）イスプカン世界会議打合せ
場所・ＣＡＰＮＡ会議室
9月 10 日（火）平成２５年度「自殺予防週間」における啓発活動
場所・名古屋駅前　木村剛理事
9月 13 日（金）平成２５年度愛知県児童虐待対策セミナー
「問題解決のための保護者支援アプローチ」
講師・富樫八郎　場所・愛知県自治センター
9月 14 日（土）15日（日）
イベント「ＥＳＤユネスコ世界会議1年前イベント」への出展
場所・栄もちの木広場
9月 14 日（土）オレンジリボン共催イベント「ハーレーサンタと一緒に考えよう。児童養護施設ってなあに?」
甲斐英幸さん「僕が走る理由」講演会
9月 21 日（土）ワン smile デーなごや　子ども・若者向けなんでもワンストップ相談
10月6日（日）イスプカン世界会議（ユースプログラム）打合せ
10月9日（水）守山区役所・守山北中学地区青少年推進会議
「児童虐待にならないための子育て～しつけと体罰の境界線～」
講師・小久保裕美　場所・守山北中学校

10月11日（金）守山区役所・森孝中学校区青少年推進協議会
「児童虐待防止のために地域ができること」
講師・伊藤俊典　場所・守山区役所
10月19日（土）20日（日）　名古屋市中区錦「長者町えびす祭り」オレンジリボン啓発活動&CAPNAの活動紹介のため出展
場所・中区錦長者町
10月27日（日）豊川いなり祭り（オレンジリボン啓発活動）
場所・豊川いなり

事務局たより

事務局　兼田　齊藤　水野

5月から新体制に替わり、あっという間の半年です。暑かった今夏、今ではひと雨ごとに寒さも増し、マスクをしている人をたくさん見かけるようになりました。

啓発活動では、理事・相談員の皆様のご協力・ご支援があり、沢山のイベントをする事ができました。ありがとうございます。今後もご協力・ご支援をお願いするとともに、是非ご提案やご指導をして頂けると幸いです。

来年はISPCAN世界子どもの虐待防止学会もあります。是非、お力添えしていただけますようにお願い申し上げます。

ご寄付

次の皆さまからご寄付をいただきました。お礼申し上げます。
（H25.8 ～ H25.10、順不同、敬称略）

個人：萬屋育子　・小久保裕美　・伊藤俊典
井ノ塾　井ノ口幹博　・弘願坊　谷田悟
白石淑恵　・競朗子　・井上光子　・匿名１名
服部恵子　・広瀬治代

新入会員　（９～１０月分　計４名　敬称略）
石田誠一郎、　入江美波、　大竹幸子、　藤野育代

編集後記

急に冬本番の寒さになりました、皆様お変わりありませんか。ニューズレターの発行が担当のサボりでこの時期になってしまいました。「施設から家庭に帰った子どもが親の虐待で死亡」「3人の赤ちゃんを置き去りにした夫婦」などが報道される中、今ＣＡＰＮＡのやれることはなんだろうと頭の中がぐるぐるしてました。（遅くなったいいわけです。）もう一方で「赤ちゃん縁組」が取り上げられることも増えていますので、テレビ欄にご注意です。
2013年もあと1か月、親と縁が薄い子どもたちに新しい出会いがありますように。　（萬屋）